

株式会社 斗々屋

2019年、東京・国分寺で量り売り専門店としてスタート。代表取締役で創業者の梅田温子さんは廃棄物ゼロのスーパーを目指し、2021年7月、京都御所東側の河原町通りに面した好立地に斗々屋京都本店をオープンした。開店から、梅田さんの理念に賛同する人が全国から集まる。斗々屋の運営も、梅田さんと志をともにするメンバーで行われている。

写真は京都本店店長の關づくみさん。

斗々屋 京都本店

京都市上京区出水町252 大澤事務所本社ビル 1F ◎11時～20時 ◎毎月最後の水曜日
モリバス停は「河原町丸太町」



容器包装ごみの
減量に貢献できる量り売り。
暮らしに取り入れて
みませんか？



写真上／売れ残った野菜や果物は、食品ロスをなくすため、塩漬けや酢漬けにしてお惣菜に活用する。写真下／冷蔵ケースにはお稲荷さんや厚焼き卵、大豆ミートの南蛮漬けなどが並ぶ。容器を持ってない人のためには、レンタルのガラス瓶やステンレス箱も用意されている。容器代は返却すると返金される。容器の購入も可能。

きょううの 挑戦者たち

Vol.33

環境に負荷をかけないライフスタイルを日本に根付かせる
という挑戦。次世代が安心して暮らせる社会づくりに貢献

店内に陳列されたオーガニック野菜などの生鮮食品や乾物、冷蔵ケースに並ぶ種類豊富なお惣菜、調味料。実はこれらは量り売りだ。全国でも珍しい形式のスーパーが京都にオープンした。その名は斗々屋京都本店だ。

「食品ロスやごみを極力出さない小売業を目指しています。普通のスーパーは食品廃棄ありきの経営ですが、斗々屋では売れ残った食材は保存食や料理に活用します」と語るのは店長の關づくみさん。

斗々屋は初となるスーパーを構える土地として京都を選んだ。その理由は、東京と比べて地価が値ごろなこと、京都市は環境への取り組みが積極的であり連携が期待できること、大阪出身の社長の人脈など、さまざまな条件が揃っていたことによう。

そして実際に開店してみると、斗々屋の目標は、無駄の多い暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけないライフスタイルを日本に根付かせること。だから斗々屋のビジネスモデルを社外に伝え、ノウハウを伝える講座を開き、理解者や協力者を全国各地に増やす活動にも積極的だ。「現在は食品が中心ですが、今後はシャンプーや石鹼なども取り扱う予定です」と關店長。

協力者と共に次世代が安心して暮らせる持続可能な社会をつくるために。斗々屋の挑戦はまだ始まったばかりだ。



私も挑戦者です

小売業を通じ、環境に負荷をかけないライフスタイルを日本に根付かせることに挑戦する斗々屋と同様に、三洋化成は独自の技術で社会課題の解決に貢献し、持続可能な社会の実現に挑戦しています。

三洋化成工業株式会社

京都市東山区一橋野本町11-1
モリバス停は「泉涌寺道」

三洋化成 Twitter
@sanyochemical